

二〇二〇年二月二八日

青空とハーモニーして黄落す

せいじ

浮き揺れしままに釣人波止小春
城址いま桜紅葉の天下かな

かかし
せいじ

振り返り振り返り辞す紅葉寺

よう子

しばらくを我が掌に雪蛩

はく子

つつぬけに山伏問答枯木立

素 秀

水辺なる紅葉もつとも濃かりけり

宏 虎

濃き紅葉阿弥陀如来へ続きけり

うつぎ

露しとどなる草の葉へ朝日燦

わかば

百歳の健の自慢は根深汁

かかし

離島へと水脈曳く船や冬夕焼

なつき

半眼の丈六仏や堂冴ゆる

うつぎ

大樽に沢庵漬や里の軒

かかし

晋山を終へて寛ぐ縁小春

よう子

稜線の影くつきりと冬茜

よし子

毎週句会秀句・みのある選・二〇二〇年二月二九日